

IV. 総括

I. 生徒の調査から

今年度の特徴としては、ほとんどの項目で昨年度より“そう思う”と答えた生徒が増えたことである。特に国際交流の充実については、中学生で大幅の増加が見られ、今年からスタートした英国語学留学に中学生も多く参加し、関心意欲が高まった結果である。また、進路に関する項目でも、中学生の評価が高くなっている。逆に、家庭学習においては年々評価が下がってきており、宿題についての意義・意図を再度確認し、生徒が自ら学ぶ姿勢を構築することが必要である。環境の整備については、昨年度後期から各教室や多目的室などにプロジェクターとスクリーンを設置したにもかかわらず、評価は昨年同様である。授業で使用する教員も増えているが、まだまだ不十分であり、教員一人ひとりが ICT 活用に向けての研究と実践での取り組みが必要である。部活動やカウンセリングの項目では年々良い評価を得られてきているので、引き続き継続指導を行う。

本校は、私立学校として、①安全安心で学校に通える環境作り、②学力の保証、③生徒一人ひとりが充実した学校生活を送る の3点を常に追求し、研鑽していかねばならない。

II. 保護者の調査から

どの学年でも、教員が熱心に指導していることや環境整備、国際交流の充実の項目では高い評価を得ている。学年の特徴によって感じ方が様々で、各項目の評価でも違っている。学習面では、宿題の重要性は理解しつつも、子供の取り組みには満足していない保護者が多いのは共通である。今回の特徴として、高校生での進路指導の評価が低かったことがあげられる。これは、教員と生徒、保護者の連携、相談の項目が低い評価になっていることに起因すると思われる。生徒と教員の相談・関係性を深める改善を行うことで、保護者と教員間の連携と信頼が構築されると思う。

III. 教員の自己評価から

今年度は、教員の評価が高かったといえる。3年前の教員の評価で“達成できた”の平均が80.8%と比べると大きく伸びてきている。ここ数年で一番高い数値になっている。特に「④ 研修の充実」の項目は2年連続100%で、年2回行われる学園研修の充実に加え、県内外への研修へも多く参加できていることが理由として考えられる。また、校内においても、職員会議の在り方を変え、現状の問題点や今後の教育方針などを全教員で話し合う時間を設けたことも要因である。ただし、同じように達成できたが100%の項目で「① 指示に従いお祈りを唱えたり、聖歌を歌うことができる」の項目では、生徒との評価に大きくずれがある点が気になる。年々良くなってきており、教員からすると改善されているということで達成という評価ではあるが、生徒個々ではまだできていないと感じていると思われる。それ以外にも、3つの項目で教員の評価と生徒の評価に差があるので今後原因を究明し、改善に向けて取り組んでいきたい。特に学習面での生徒の評価から、課題や家庭学習の意義について理解ができないまま、言われたから課題を出すというやらされ感が強く見られる。特に中学生が顕著で、高校生になると進学意識が高まり、改善傾向にはあるがまだまだ不十分である。また、進路指導においても、自己実現に向けての意識的な学習など、教員側の取り組みがうまく生徒に伝わっていないことがあり課題が残る。

昨年度と比較して、教員の評価で“達成できた”が減少した項目が2つあった。「⑦ 生徒募集」に関しては大きく下回っている。今年度の外部からの入学者が若干減ったこと、思うように募集活動ができていないことが理由としてあげられる。また、入試広報の活動でここ数年新たな取り組みがないことも要因である。ホームページの刷新などいろいろな企画はあるものの、実際改善までには至らず積極的姿勢が見られていないということ

で教員が各自厳しい評価をつけたものと考えられる。年々生徒は増えてはいるが、まだまだ不十分であるという教員の意識が反映されたものと思われる。「⑥ 国際教育を充実させるためのより具体的な取り組み」に関して昨年度より、5.6%減少している。今年度はオーストラリアの姉妹校との交換留学以外にも、新たに夏休みを利用して、英国への2週間の語学研修プログラムを開始し、参加人数も26名と多く貴重な学びの機会を得てプログラムは成功裏に終了した。通常であれば評価が上がるどころ、逆に評価が下がっている点で教職員間での意思伝達が不足であったと考えられる。ただし、この項目に関して昨年度の評価が「B」、今年度の評価が「A」となっているのは、項目別の評価では一番多いパーセンテージの項目を採用するため、昨年度は「達成できた」が93.6%のうち多くが「B」の評価をつけており、今年度は88%ではあるが「A」の評価が多かったことから見ると評価を得たと言ってもよい。

毎年、学校評価を行い、生徒、保護者、学校関係者評価委員の皆さんから多くのご意見をいただき、現場としても少しずつ改善されていることが確認できた。ただ、まだまだ、多くのことが課題として残っており、また、この学校評価が我々の活動の指針となっていることから、もっと積極的な姿勢で今後の改善に取り組んでいきたい。そのためには、これまで以上に細かい点まで、改善案や今後の取り組みに関する追跡調査を実施し、できるだけ明確な開示方法を考えていく必要があると感じる。

IV. 学校関係者による評価から

評価に先立ち、令和元年11月19日(火)、本校において学校関係者評価委員の方々にお集まりいただき、より円滑な評価実現に向け、「生徒や保護者から見た学校評価」と「教員の自己評価」、その他関連する資料を提示しながら、本校教育活動について種々説明を行った。

この説明を経て、ご提出いただいた「生徒・保護者アンケートを通してみる学校関係者からの評価」では、評価者が一番多い評価を学校関係者の評価とした場合、今回も昨年に引き続き質問16項目の全てで最高評価の「A(とてもそう思う)」をいただいた。項目別においても、3、生徒指導部の「服装や頭髮等に関する指導が十分にされている」の項目で1名の方が「B」の評価をつけたが、それ以外のすべての項目で全員から「A」の評価を頂いた。ご助言もいただいた通り、やはり頭髮・服装においては、一部守られていない生徒がいれば、それが目につき生徒、保護者をはじめ学校関係者の方々には少し残念だなという思いを抱かせてしまうということ言うまでもなく、更なる指導が必要だと感じた。

ご意見、ご助言からは、生徒がいつも明るく挨拶ができ、学校の雰囲気が良いことが評価されている。特に学校行事からは、中高生問わず、生徒同士の連帯感や団結力、各々が充実した活動を行えていることに評価を得た。また、教員が生徒一人ひとりに向き合い、きめ細やかな指導をしていることが評価され、ICT器具の活用については、今後も研究と工夫が必要であると感じている。

次いで「教員の自己評価を通してみる学校関係者からの評価」では、前年度調査結果と同じく「教員の各種委員会(校務分掌)の目標や具体的内容の達成状況について」で「A」の評価を得た。その他は全て「B(どちらかといえばそう思う)」の評価であった。ただし、3校務分掌の具体的な取り組み、4各教科の具体的な取り組み、5各学年の具体的な取り組みにおいては「A」の評価もいただいているので、本校の改善努力が少しずつ実を結び評価されつつあるといえる。今後も継続的な改善取り組みを行っていく。

本校の教育活動の中核となる目標に対してのご意見、ご助言として、中核的目標の達成の項目では、やはり学校の中核となる大事なことで、長期的に見ていかなければいけない項目であると同時に、具体的な取り組みの立案、実践、改善を定期的に繰り返す必要を感じる。移り行く社会の中で、いろいろなことが急速に変化する時代。その中で、私立学校として他校と差別化できる方向性がまさに中核目標であると考え。次年度は中核目標の見直しや再確認を教職員一同で行い、日々の教育活動の充実を図りたい。校務分掌の評価においても、学校の広報活動の充実と改善が必要である。学校の宣伝活動の在り方では、塾、学校訪問はもとより、HPの刷新も挙げられる。また、これまでは本校の教育方針、目標とする生徒像、学校の雰囲気などをお伝えしPRしてきた。これ

からは、これらの項目を、どのような取り組みで実践しているのか、どんな力をつけてあげられるのかなど具体的な教育内容等を説明することで、選んでもらえる学校になるのではないかと今回助言をいただき強く感じた。

進路指導における項目では、ある程度よい評価を受けている一方で、更なる改善が必要だという声もいただいた。新学習指導要領の実施を受け、これまでのパイルアッププランを再度見直し、進化させる時期に差し掛かってきている。また、生徒指導でカウンセラーの数を増やし、充実させたことは多くの評価をえている。これからは、カウンセラーと教員の密な連携を図るための体制作りが急務であり、現在取り掛かっている。また、各教科指導において、手厚い指導を評価していただいている。今後は、教科間の横の繋がりを意識した学習が求められる。探求学習などで上手く導入していきたい。さらに、6カ年を考えた時にはやはり中学生で、基礎学力の構築、自主自学の基礎を身に付けさせる必要がある。「学習の必要性を感じ、自ら学ぶ生徒」をどのように育てていくか現在教員間で再度話し合いを持っている。本校生徒の実状に合わせたプランを教員みんなで考え実践し、生徒らが本当の意味での学力が身につくようにサポートしたい。各学年の項目においては、地域との交流を通し、多感な時期である中高生が多くのことを学ぶ機会としてほしいとのご意見をいただいた。

V. 今後の取り組み

全体の総括として、①生徒、保護者、教員の評価の差をしっかりと分析する ②学校の中核的目標や各部等の目標の見直しと教員への落とし込み ③具体的改善内容の提示と説明 ④長期的計画案と PDCA サイクルの確立が必要である。年々評価は良くなっている項目が多い中、まだまだ改善が必要な項目、また、今良い評価を受けている取り組みが5年後は評価されるとは限らないことなどを踏まえ、常に改善と実践が必要である。生徒、保護者の評価を得ることが一番ではあるが、教職員が自らの取り組みに充実感を持たなければ、生徒、保護者にも評価されない。もう一度教職員一同、もう一度一つ一つの取り組みの意図、目的などを十分に理解し、自らが満足できる教育を行っていきたい。